

ハルナビバレッジ株式会社

Haruna Group Company Profile

- 法人設立 1996年2月23日
- 事業内容 グループ経営・マーケティング活動・営業活動・市場開発・商品開発・S C M戦略
- 東京本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-5-13 三義ビル5F
Phone:03-3275-0191 Fax:03-3275-0192
- 高崎本社 〒370-0841 群馬県高崎市栄町4-11 原地所第2ビル9F
Phone:027-387-0101 Fax:027-387-0102
- 資本金 4億2,090万円(発行済株式数8,718株)
- 売上高 143億円(2010年3月末)

- グループ代表(最高経営責任者) C E O 青木清志【創業者】
- 代表取締役社長(経営執行責任者) C O O 青木麻生
- 代表取締役常務(財務・人事・情報担当執行責任者) C F O 栗原健一
- 代表取締役常務(生産・品質・環境担当執行責任者) C T O 中澤幹彦
- 取締役 有田喜一【高崎商工会議所 副会頭、群栄化学工業(株) 代表取締役社長】
- 取締役 須齋 嵩【群馬大学 研究・産学連携戦略推進機構 客員教授】
- 最高監査役 小出信介【小出公認会計士・税理士事務所所長】
(2010年株主総会にて最高監査役就任予定)
- 監査役 杉山 学【群馬大学 社会情報学部 准教授】
- 執行役員 営業本部長 山崎敦也
- 執行役員 SCM統括本部長 兼 品質保証本部長 岩井修二



ハルナビバレッジ株式会社
代表取締役社長
青木 麻生

ハルナグループは独創性ある飲料創造企業へ飛躍し 顧客満足度ナンバーワン企業を目指します。

ハルナグループは1996年のハルナビバレッジ株式会社創業から14年間、顧客志向を経営の核として、飲料生産設備の拡張と製造技術の向上、品質管理の徹底に努めてまいりました。現在、当社グループは5つの自社工場と社員300名まで業容を拡大し発展してまいりました。これもお客様、株主の皆様、お取引様をはじめとするステークホルダーの皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。2009年4月より当社グループは大規模な組織再編を実施し、創業14年目でいよいよ第2の創業期に入りました。創業者の経営理念を継承し、今後益々、激変する環境変化に迅速且つ柔軟に対応し、新しい顧客・市場ニーズに合致した価値を創造してまいります。清涼飲料市場は引き続き世界的な金融、経済情勢悪化により消費マインドの低迷が続く市場成熟化の中、大手ブランドメーカー、飲料受託業界間での競争が激化傾向にあります。他方、節約志向、生活防衛意識を背景としたプライベートブランド製品の販売拡大は品質の安全、安心頂ける商品に対する消費者評価の再認識であると見られ、新たな需要が創出されております。

当社グループはこの危機(ピンチ)を好機(チャンス)に変えるべく、経営資源である人材、製造設備、技術力、顧客対応力、立地といったグループ企業競争力の源泉に更なる磨きをかけて経営基盤の再構築とグループシナジーを発揮し、次なる成長と企業価値の向上に努力を続けてまいります。

私が考える企業の社会的責任とは

- 顧客の満足なくして会社の繁栄は無い。
- 会社の繁栄なくして社員の幸せは無い。
- 社員の幸せなくして顧客の満足は無い。

「顧客」と「会社」と「社員」の全てが幸せになってこそ社会の繁栄に繋がっており、これらの実現に向けて社員一同、持続的努力に取り組んでまいります。皆様方には今後とも一層のご支援とご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社

Haruna Group Company Profile

- 法人設立 2008年4月1日
- 事業内容 人事管理・資金調達及び資金管理、運用・会計業務・情報ネットワークの構築・管理人材教育
- 本社 群馬県高崎市栄町4-11 原地所第二ビル 9F
Phone:027-387-0101 Fax:027-387-0102
- 資本金 5,000万円
- 代表取締役社長 栗原健一
- 取締役 青木麻生

● 業務目的

ハルナインテリジェンスネットワークでは、複数の組織で実施しているインターナル・サービスを集中化し、グループのコスト削減を図ると共に、グループビジョンを迫及し、「ひと」と「情報」をグループ内で還流させ、シナジー効果を最大限に創り出していきます。

- グループネットワーク経営を効率かつ迅速に行なうため、人と情報をグループ内で還流させ、シナジー効果を最大限に引き出す
- 自律型グループ人財の育成
- インターナル・サービス(企業内部への役務の提供)を集中化し、顧客の視点でサービスの向上とグループコストの削減を図る
- 資金調達から資金運用まで一元管理を行い、グループ資産の有効活用を行なう
- 企業価値を考慮し、全てのステークホルダーとの関係重視を図る



ハルナインテリジェンス
ネットワーク株式会社
代表取締役社長
栗原 健一

「戦略的知創型組織への変革」

昨今の急速な環境変化に対応するには、組織も人も今までの延長線では成り立ちません。積極的に挑戦し色々なものを吸収すると共に、知識を知恵に転換し、よりスピーディーにならなければいけません。

一人ひとりが時間管理の徹底を行い、業務にデットラインを設け、時間を有効活用すると共に「机上の理屈や常識に安住せず」「経験にしがみつかず」「言い訳を探さず」可能性にチャレンジしていくことのできる企業風土、仕組み創りに取り組んでおります。

また、21世紀は見える資源、資産の競争の時代から目に見えない「情報」や「知識」が主導する競争情報時代と言われ、ITなくして企業活動も成り立たない時代となっています。

このような環境の中ハルナグループでは、ITを活用した情報の共有や手作業のプロセスを置き換え、業務の合理化を図るとともに、ITはイノベーションであり新しい価値を生み出す手段として捉え、スピード経営、そして商品開発とビジネスモデルの革新を図っているところであります。

また、顧客深耕、顧客志向の優位的競争力を確保し知創経営へ積極的に取り組みを行っています。

さらに、IT化と共にビジネスインテリジェンスの構築を行い、意志決定の迅速化、社員の生産性向上、業務プロセスの効率化を図っていきたいと併せて考えています。

ハルナビバレッジファクトリー株式会社

Haruna Group Company Profile

● 法人設立	2009年4月1日
● 事業内容	清涼飲料水製造・品質管理
● 本社	群馬県高崎市足門町39-1
	Phone:027-372-6911 Fax:027-372-6912
● 製造本部	Phone:027-372-5875 Fax:027-372-5877
● 品質管理本部	Phone:027-372-2700 Fax:027-372-7046
● 社会環境本部	Phone:027-310-0661 Fax:027-310-0717
● 資本金	2億円
● 売上高	19億円
● 代表取締役会長	青木清志
● 代表取締役社長	中澤幹彦
● 取締役	青木麻生
● 執行役員 生産本部長	三原修一
● 執行役員 社会環境本部長	古市直也



ハルナビバレッジファクトリー株式会社
代表取締役社長

中澤 幹彦

2010年スローガン『factory innovation part2』 『チャレンジ!』『勇気!』『創造!』

現場は常にイノベーション、現在進行形です。
“勇気”を持って“チャレンジ”し、新たなものを“創造”する
自己変革と限界突破でイノベーションを成し遂げよう!!

ハルナビバレッジファクトリーは2009年4月より創業を開始し、榛名山麓の良質な水源に恵まれ、3つの工場稼働により小型PET製品(280ml)から大型PET製品(2L)まで様々な容器のラインを持ち、液種としましては緑茶・烏龍茶・混合茶・紅茶・ニアウォーター・果汁飲料(低果汁)・スポーツドリンクの生産を行っています。飲料市場におけるお客様嗜好の高度化や消費の変化、多様化といった様々な要望に応えると共に、安全安心といった食品工場としての高い信用を維持して行く為、改善改革(ファクトリーイノベーション)をスローガンに新たなものを創造すべく社員一同、日々の取り組みを実施しております。生産品質に関しては平成20年に再承認されましたHACCPシステムによる確実な衛生管理を第一に考え、原材料の受入れ段階から内容液の仕込み(抽出～濾過～調合)殺菌工程～包装、検査、出荷まで全ての工程を厳正に管理する事で安全で美味しく良質な飲料を製造する事でよりお客様に感動して頂ける生産活動を目指し努力して参ります。

タニガワバレッジ株式会社

Haruna Group Company Profile

● 法人設立	2008年1月1日
● 事業内容	清涼飲料水の製造販売 天然水製造販売・豆乳受託事業 ペットボトル容器成型・共同事業
● 本社	群馬県利根郡みなかみ町政所1011
	Phone:0278-62-1111 Fax:0278-62-1144
● 資本金	2億円
● 売上高	14億円
● 代表取締役会長	青木清志
● 代表取締役社長	中澤幹彦
● 取締役	青木麻生
● 執行役員 生産本部長	小川啓治



北に新潟県境の三国山脈、谷川岳を臨み、利根川源流にあたる 北緯36°39'59、東経139°00'92、標高355メートルに位置するタニガワバレッジ(株)は、2008年1月からハルナグループの企業として営業活動を開始しました。

三国山麓の良質な水源に恵まれ、自然がもたらす谷川水系の「おいしい水」を商品化し皆様にご提供させていただいております。2つのラインを有し、「天然水」、「烏龍茶」を製造するライン及び、「ニアウォーター」、「スポーツ飲料」から「高濃度果汁飲料」まで製造するラインをもち、両ラインとも280ml(丸・角)から2000mlまでの容器に対応し、お客様の様々なご要望にお応えさせていただいております。

特に2000mlの耐熱ボトルは、ブロー成形工場を併設し、2009年1月から稼働を開始しております。環境負荷への低減はいうまでもなく、お客様へそのメリットをご提供させていただきます。



ハルナエコロジー株式会社

Haruna Group Company Profile

- 法人設立 2002年7月29日
- 事業内容 エコロジー
飲料製品の輸出・販売
飲料製品の輸入・販売
飲料製品の製造・販売
飲料製品の企画・開発
飲料原料の研究・開発
特許・実用新案・商標の開発
海外市場の調査・マーケティング
- 本社 東京都中央区日本橋3-5-13 三義ビル5F
Phone:03-3517-5745 Fax:03-3517-5754
- 資本金 5,000万円
- 売上高 4億円
- 代表取締役社長 青木清志
- 執行役員 営業・業務統括本部長 青木日出生



ハルナグループの理念「顧客志向」を世界に広げていきます。

ハルナグループでは、長年培ってきた飲料製造の「ものづくり」のノウハウとグループの利点を生かし、海外においても飲料食品事業を積極的に展開しています。

ハルナエコロジーでは、日本ならではの美味しい飲料をお届けすることはもちろん、それぞれの国や地域の食文化やニーズを見据えた、新しい商品を提案しています。

開業当初から広げていますヨーロッパとの取引は、日本茶をベースにしたお茶を輸出し、同時にスエーデンより100%天然素材を使用したフルーツジュースを輸入し市場でも好評を得ています。

現在ではアジアを拠点に（中国、インドネシア）やオーストラリアへ、自社ブランドを中心にその地域ごとのニーズに合った商品を展開しています。また、成長著しいベトナムにも市場機会を見出し、マーケティング活動を行っております。

また、近年、健康志向が高まる中、科学的研究や品質管理技術を礎として健康・ライフサイエンス分野の事業として、ウェルネスサイエンス研究所を設立しました。科学的な根拠による裏付けと徹底した品質管理に支えられた商品を創造し、安全で安心できる商品を私たちがお届けできることで、世界中の人々が健やかな生活を送れる事を願い、日々前進を続けていきます。

ハルナグループの概念「顧客志向」を世界に広げていきます。

ウェルネスサイエンス研究所

Haruna Group Company Profile

- 事業内容 機能性素材・原料の研究開発
機能性分析と解析
機能性原料と製品の臨床検査
機能性原料の製品化設計・試作
- 研究所 群馬県北群馬郡榛東村広馬場3044-12
Phone:0279-30-6345 Fax:0279-55-6676
- 所 長 医学博士 免疫学系 青木陽生
医療法人 院長 五島知郎
医学博士 循環器系 伊谷野克佳
農学博士 農業系 中信光義
医学博士 薬学系 韓 涛
(中国北京中医薬大学准教授、副主任医師)



<生体調節と機能性飲料・食品の研究>

医学、医療、福祉の周辺は多くの課題についての調整を迫られています。例えば医の倫理医学教育、人間科学的な医療像、科学偏重傾向医療の歪み、医療の閉鎖性など、どれ一つとっても個別に明快な解答を得られない難問ばかりであって、官僚的な発想による硬直した医療概念の変容が切実に求められています。

このような諸問題が顕在化してきた背景には、国家財政と連動する医療経済抑制政策の主導原理があります。そしてグローバルな経済至上、拝金主義の思想によって、医学、医療の自立的な運営、経営経済的な側面の部分汚染が進み、一方では生殖医療にみられるように、先端医療における物質主義至上の医学原理があり、この二つの原理主義には、人間の生存原則個々の多様な医療ニーズなど、人間を総合的に把握する分野が欠落しているのです。それは人間の精神作用を物質の法則に従って科学的に理解し、人間を物質面と精神面とから平等に考察する人間科学 (human services sciences) の倫理であります。

それでは精神と肉体、部分と全体の一体性を求める考え方、あるいは測定可能かどうかの判断、客観性、再現可能性を重視する基準、この両者の考察法の限界を、現実の医療システムの中でどのように扱えばよいのか。

前者の東洋医学的思考と後者の西洋医学的考察の相互補完の関係を築く、人間本位の総合医療を実現するのが現実的です。

総合医療は、個人にとって適切な治療法や予防法を選択し実践し、さらに病態の改善や疾病の予防にはセルフケア (selfcare) による健康の自己管理という考え方が基本となっていますが、総合医療を支える補完代替医療の分類の一つに、天然物や生物学的産物を原材料とする保健機能食品を用いる栄養療法があります。

すなわち食品による生体の免疫系、神経系、内分泌系、循環器系などの調節に関与すると考えられる免疫応答修飾物質の化合物を用いるバイオセラピー (biotherapy) と呼ばれる治療領域を指します。

食品成分が生体の恒常性維持や疾病の予防などの生理機能性をあらわすとき、その成分が直接、間接に遺伝子に作用しているものと考えられていて、食品由来成分が遺伝子発現や制御に及ぼす影響、または比較的生理活性の弱い機能性成分の解析など、ゲノム技術の応用は研究の幅を広げることになります。

いずれにしても科学的研究によって実証され、ヒト介入試験による成果が客観的に認知された機能性食品へのニーズは高いと思われる、病気の予防、回復のための手段は、自らの心身機能の可能性について専門家の助言支援は活用するとしても、欲する人生を个性的に実現するための保健行動の実践です。

このようなウェルネス概念が伴うことで、機能性食品摂取の効用は倍加すると思います。

ウェルネスサイエンス研究所 所長 青木陽生



Corporate Data

Haruna Group

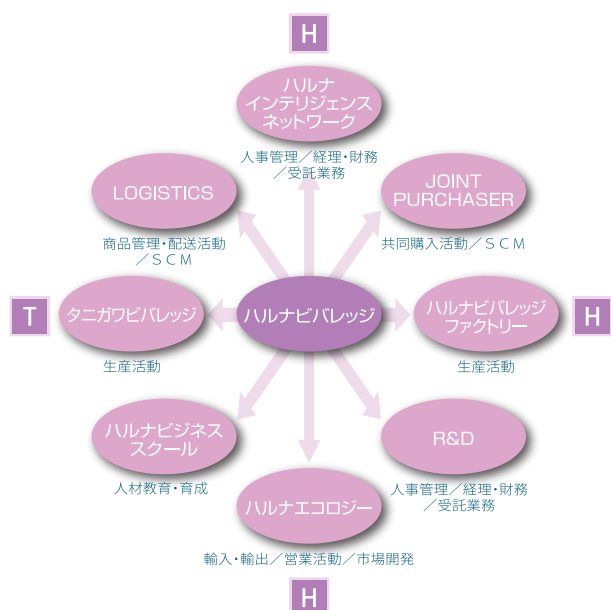
ハルナグループ

Haruna Group Company Profile

1996年の創業以来、清涼飲料水製造販売事業を展開してきたハルナビバレッジ株式会社は「顧客志向」を経営理念に活動してまいりました。その歴史の中で研究事業や環境事業、人事育成事業等も積極的に取り組み、現在ではハルナグループとして事業を拡大し、さらにヨーロッパやアジアをはじめとする海外事業、飲料ビジネスを幅広く展開しています。

- グループ会社
グループ5社 関連会社2社 (国内・海外)
研究所
- 社員総数
278名 (2010年3月末)
- 連結売上高
148億円 (2010年3月末)
- 資本金
4億2,090万円 (発行済株式数8,718株)
- グループ最高経営責任者【創業者】
青木清志

ハルナグループ全体像



Haruna Beverage グループ最高経営責任者 青木清志

Haruna Beverage Company, Limited.

Haruna Beverage ハルナビバレッジ / 代表取締役社長 青木麻生

Haruna Beverage ハルナビバレッジ / 代表取締役常務 栗原健一

Haruna Beverage ハルナビバレッジ / 代表取締役常務 中澤幹彦

新規事業戦略センター

営業本部 執行役員 営業本部長 山崎敦也

第一営業部

第二営業部

SCM部

商品開発部

品質保証本部 執行役員 品質保証 兼 SCM本部長 岩井修二

ウェルネスサイエンス研究所

ハルナビビジネススクール

広報・秘書室

Haruna Beverage Factory Company, Limited.

生産本部 執行役員 生産本部長 三原修一

生産設計技術部

製造部

社会環境本部 執行役員 社会本部長 古市直也

品質管理部

環境・エネルギー部

Tanigawa Beverage Factory Company, Limited.

生産本部 執行役員 生産本部長 小川啓治

生産設計技術部

製造部

社会環境本部 本部長 浅野間博文

品質管理部

環境・エネルギー部

業務委託部

Haruna Ecology Company, Limited.

営業・業務統括本部 執行役員 営業・業務統括本部長 青木日出生

第一営業部

第二営業部

中国室

オーストラリア準備室

営業企画室

商品管理・会計室

Haruna Intelligent Network Company, Limited.

経理・財務担当 責任者 関根隆雄

総務企画担当 責任者 藤井 満

人事管理担当

情報システム推進担当

社友会

跡田 潔 小林 欣司 佐野昭一郎 菅谷 重信

高嶋 重皓 田村 泰彦 苫米地 章

本会はグループの発展に多大な貢献をされました方々に対し、敬意を表すと共に、会員相互の親睦と福祉を図る会です。(2008年1月28日発足)